

功利か眞実生活か

- 先生、一切宗教にはみな、この世の利益がありますが、なぜ浄土眞宗にはそれがないのでありますか。
- △ それはおもしろい問いであります。
- 先生はそれを何とも思つてはいませんか。
- △ 何とも思つていませぬ。むしろないのがほんとうだと思ひます。家運がよくなつたり、頭痛がなおつたり、眼病がなおつたりする程度の利益なら、何も奥深い仏教などを必要とは思ひません。
- でも他宗の人たちは、眞宗はこの世で何の利益もない、死んでから仏様にしてもらうような、あてにならぬことを信ずる教えだと言ひます。
- △ 根本からちがつています。眞宗とは、いろいろな他の宗教とならぶべきものではなくて、一切の宗教を超えたところに見出される世界で、無宗教の宗教であり、一人一人の信念の世界であります。だから邪な勝手な願ひを祈禱によつて満足しようとするような、閑だらけの心の内へはほんとうの信念の世界は生まれはしないのであります。
- 私は、眞宗には祈禱をゆるさぬのを、ものたりなく存じます。祈禱のないのは眞宗ばかりだと存じます。
- △ 祈禱をゆるさぬのではなくて、祈禱が間にあわぬのです。私はたといゆるされても祈禱しようとは思わぬのです。
- でも世間の宗教は皆、いろいろな祈禱をゆるしてそれを実行して、効果を得ているではありませんか。
- △ あるかないか私にはわかりませぬ。けれどもそれは、ここで語りあわねばならぬほどの高い問題ではないのです。要するに無智な凡愚の徒が作り出した、つまらぬ迷ひ事でありませぬ。足が悪ければお大師様に、眼が悪ければ薬師如来に、金もうけがしたさに福の神に、海の上が無事のように琴平さんに、頭痛がすればお題目を唱え、家相を見てもらうためにお大師にと、いわく何、いわく何。こうしたつまらぬご利益は、人間の功利心につけこんだ、つまらぬ迷ひ心であります。
- けれどもそれをそしらなくてもいいと思ひます。
- △ そしるのではないのです。お大師様も琴平さんも、福の神もそんな所にはいないと言ひます。私はある時、貧民窟に行つたことがあります。かれらはたいがいこんなものをゴロゴロするほどならべています。それにたずねてみると、貧しいからこそうしておいてご利益を受けるのだと言ひます。ご利益はすいぶんあると言ひます。けれども私は、こんなご利益をたよりに暮らすようなことだからこんなに飲食のどん底に落ち込んだのだと深く考えさせられました。

- ではそんな祈祷はいけないことだとお考えなのですか。先生がなさらぬばかりですか。
- △ いけないことだというのです。凡愚の徒の迷い事なのです。程度高い生命の大問題とは関係もないつまらぬことです。そんな無責任な運命論者たちが集まると国家など亡んでしまいます。進歩も発展もなくなりません。
- そんなにおっしゃると、真宗の同行が寺に参つて、熱心に聴聞している心理はやっぱり、阿弥陀様のお力によつて極楽に参ろうという欲得ではありませんか。腹痛を予想してお題目をと見えるのと違いはないと思います。
- △ なるほど、そうした気持の人たちが大部分かも知れませぬ。
- それでは真宗だつて同じだと存じます。
- △ けれども、そうした人たちにはほんとの親鸞聖人の信仰は味わえませぬ。それは断じて真宗でも何でもないのです。真宗のような型を見せているだけなのです。
- それでは親鸞聖人の信仰はどんなものなのです。聞かせてください。
- △ 聖人の求めたまいしものは真実であります。あらゆる虚偽をふりすてた真実の価値生活であります。宇宙の真理に一体なる解脱の生活であります。仏たるべき無上正真の一道であります。けれども、真実を求められれば求められるだけ、内なる虚仮不実が目覚められました。真実を求めない者に、どうして虚仮不実の自覚かできましようぞ。実に聖人の求めたもうたものは、利益ではなかつたのです。かくて真実ならぬ自分に徹底された極致が地獄一定の体験となつたのです。そうして法然上人の教化によつて、如来の真実のありつたけが、廻向されてあることに目覚められました。親鸞聖人の信仰は、生命を如来の本願に乗托されたので、たんに極楽にのみ目をつけたり、利益のみを前提にしておいたりするような我のある信仰ではなかつたので、真実を見失うて、真実を得られたのです。地獄一定の目覚めが、そのまま、如来の慈悲に救われたのです。
- 私はどうしても、そのように信じられませぬ。どうしたのでしょうか。
- △ ただ求めなさい。信じられるられないを初めから考えたつてだめです。ただ求めていくのです。音楽に何の理解もないものに、ベートーベンの名曲を弾いて聞かせたとて、それは、猫に歌を聞かせるようなものです。心の仏眼が開いてくれば、だんだんと、六字の名曲を聞いていることがうれしくなります。そうしていつしよに歌われるようにもなります。
- では求めて求めてゆきましよう。